

求められる役割（責任）を果たす

これまでの「年度当初にあたって」は、スタッフのみなさんに多くのことを求めることばかりでした。先日あるテレビ番組で「自分自身が周りから求められていることをやるのが大切である」というある方の言葉に接して大いに自らを省みるきっかけとなりました。似たような経験は過去にもあったのですが、その時は申し訳ないことにあまり心にとどめることが残念ながらできませんでした。

言われたことは、「理事長でなければできないことに専念してほしい」でした。この言葉を裏返せば、「他のスタッフに任せず自分が動いて、肝心の仕事が疎かになっている」という大変厳しい内容の指摘であったと思います。結果として期待を大いに裏切ることとなり、「後悔先にたたず」で本当に申し訳なかったの一語に尽きます。

唐突かもしれませんが、「選挙はなりたい人よりも、なってもらいたい人に！」という有名な(?)言葉があります。人はえてして他人に対して、「ああしてほしい・こうしてほしい」といいがちです。さらに熱を帯びれば、「こうすべき」などという発言をしがちであると思います。周囲の思いなどお構いなしに自分の価値観を最優先にして、発信し周囲との軋轢が発生しても、どうかすれば相手に責任があるぐらいの感覚であると思います。

自分の考えをしっかりと発言することは大事なことです。しかし、他人の意見に耳をかさずに自説に拘る人がいると周囲は大変困惑することになるでしょう。

議員さんはなりたいだけの人になるよりも、なしてほしい人になってもらうのがベストであると思います。

なしてほしいと思わせる素質とはいったい何でしょうか？聞く耳を持っていることではないでしょうか。耳障りの悪いことも含めて聞く耳がある。そして、聞いた中で自分が求められていることをしっかりと受け止めることがき、実行に移していくことが出来る人が、求めているばかりの人よりも大切な存在なのではないでしょうか。

今年度は、スタッフさんからの要望をたくさん受け止めて、自分が果たすべき役割をしっかりと一つ一つ果たしていく気持ちでおります。

(文責：大場保治)